



「呼吸療法入門」

長野 準・天羽 敬祐 編

最近我が国でも内科的，外科的疾患を問わず呼吸療法の重要性がますます認識されつつあり一般病棟においても積極的な呼吸管理がナースを中心に行われるようになった。我々も，ひと頃のような術前術後や集中治療室だけに止らず各種公害患者の外来，ねたきり老人，小児，ひいては一般住民の健康指導に欠かすことの出来ないのが呼吸療法であり，実際にも多くの効果をあげている。このようなことから我が国でも専門の呼吸療法士の育成が日本胸部外科学会その他の機関から強く望まれており近い将来実現の方向へ向かうであろうし，その需要はますます増大する一方である。

一方これまで我々臨床に携わる者のために書かれた指導書の多くは医師の専門的な立場から書かれた難解なものが多くまた部分的であったり初めてみる記号や数式にいたずらに悩まされたり，無味乾燥な内容と相俟ってよほどの根気と努力を要するものが多かったように思う。本書は呼吸療法入門となっているが，その内容は経

験豊かな臨床大家による，きめ細やかな配慮が随所に窺われる。まず冒頭には呼吸生理に用いられる記号があらかじめ基本記号，ガス相の記号，血液相に対する記号というように読書にあたって理解の助けとなるよう整理して解説されているのが嬉しい。全般的には基礎から臨床まで呼吸療法の過程に必要なことがらは余さず述べられており，病態生理，薬理作用，器械器具の原理と扱い方，理学療法と範囲が広く実地的である。また呼吸器系の構造換気力学などについても平易に意味づけを加えながら全体的には余裕ある流暢な文体で読む者を最後まで飽きさせない。一読するに及び待望の良書を得た思いで我々セラピストにとっても本書の出版が遅きに失した感じである。ナース諸姉，理学療法士にとっては，必携の書であり，また学生指導の参考書としても是非座右にオススメしたい本である。

(B 5，178 頁，2500 円，医学書院，1981)

(東京都養育院付属病院 理学療法士 石橋 朝子)